分科会 10　社会の期待に応える薬剤師の将来像

10 月 8 日 (月・祝)　10:30 ～ 13:00　メイン会場（アクトシティ浜松　1F　大ホール）

W-10-01　基調講演　薬剤師の将来ビジョン策定について

児玉（こだま）　孝（たかし）
公益社団法人日本薬剤師会会長

1．今、何故、この時期に？

①医療を取り巻く社会的背景の変化

日本の人口構造の変化に起因する超少子高齢社会に対応するため、現在、国による社会保障制度改革の本格的な議論が開始され、それに伴い今後様々な法制度改革が実施される可能性が高い。

②薬剤師のすべての職域における業務環境が大きく変化しつつあり、各職域の薬剤師が将来的な多様性について意識が高まりつつある。

③本年 4 月に、6 年制教育を受けた薬剤師が社会に輩出され、それに伴い、“チーム医療”等、様々な所で薬剤師の今後の業務の在り方についての期待が高まっている。

④日本薬剤師会は、公益法人改革に伴い、本年 4 月より公益社団法人として再出発することとなった。それによって、今まで以上にすべての職域の薬剤師に対して社会から公益性の高い行動が要求されてきており、それに責任と主体性を持って応えなければならない。

2．何年先を見据えて策定したか？

各職域の現状により若干の差異はあるが、国の社会保障制度改革の目標設定時期である、2025 年を概ねの目標とした。

3．本ビジョンの対策は？

オール薬剤師に対する、現時点における将来ビジョンの提示と同時に、社会に対するアピールでもある。

4．策定内容のキーワードは？

「医薬品に関するすべての業務、即ち、研究、開発、治験、製造、流通、試験、管理、情報、調剤、指導、販売に至るまで、すべての職域の薬剤師が一元的に責任と主体性を持つことによって、最終的にすべての医薬品の適正使用（有効性･安全性･経済性）を担保するとともに、公衆衛生を通じて国民が健康な一生を送れることに貢献する。」を基本とし、まず、2025 年を見据えた各職域の薬剤師の姿の要点を示した上で、職域ごとに、現状を踏まえた具体的なビジョンを提示した。